

1 製品及び会社情報

会社名 ニッタイ工業株式会社
住 所 愛知県知多郡武豊町大字富貴字黒山1番地9
担当部門 企画開発チーム
電話番号 0569-73-9051 FAX 番号 0569-73-9052
緊急連絡先 担当部門に同じ

作成日 2018年 1月29日
改訂日 年 月 日

製品の名称 住宅外壁用特殊接着剤 EY-30 BL ブラック
DG ダークグレー
LG ライトグレー
W ホワイト

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性・刺激性 区分2
水生環境急性有害性 区分3
水生環境慢性有害性 区分3

※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示 :
注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 皮膚刺激



注意書き :

【予防】

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- 静電気放電や火花による引火を防止すること。
- 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用し、換気を充分行うこと。
- ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 容器を密閉しておくこと。

【対応】

- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
- 皮膚に付着した場合、付着物をふき取り、多量の水と石鹸で洗う。
- ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。
- 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

- 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で保管する。

【廃棄】

- 内容物や容器は焼却設備で少量ずつ焼却する。又、産業廃棄物として処理する場合は、許可を受けた処理業者に委託する。

「製品ラベルの有害性情報は製品群毎に共通の内容としていますので、個別の製品安全データシートの記載内容と異なる場合があります。」

3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学名 : 変成シリコーン・エポキシ樹脂
 成分及び含有量 :

成 分 名	含有量(%)	C A S 番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
変成シリコーン樹脂等、無機充填材 内) ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(液状)	80.1~95.9	非公開	非公開
酸化チタン	0.5~2.0	25068-38-6	(7)-1279
酸化カルシウム	1.0~1.0	13463-67-7	(1)-588
カーボンブラック	3.0~8.0	1305-78-8	(1)-189
すず及びその化合物 (ジブチルスズ化合物)	1.0未満	1333-86-4	(7)-1283
	0.1~0.9	非公開	非公開

不純物として、トリブチルスズ化合物を 3 p p m 未満含有します。
 但し、ビストリブチルスズオキシドは含有しません。

4 応急措置

目に入った場合 : 清浄な水で 15 分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。
 皮膚に付着した場合 : 付着物をふき取り、水と石鹸でよく洗う。かゆみ、炎症が出た場合は、直ちに医師の診断を受ける。
 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合 : 多量の水、牛乳又は微温塩水を飲ませて吐かせた後、医師の診断を受ける。

5 火災時の措置

特定の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。
 消火を行う者の保護 : 保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。
 消火剤 : 水 [], 二酸化炭素 [O], 泡 [O], 粉末 [O], 乾燥砂 [O]
 その他 ()

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
 漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止する。
 環境に対する注意事項 : 付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する
 多量の場合には流路を盛土などで囲って流出を防止する。
 除去方法 : 少量の場合は、ウエス、砂などに吸収させ、フタ付の容器等に回収する。
 多量の場合は火花の出ないシャベル等で空容器等にすくい取る。
 ※流出、その他の事故が発生した時は、警察署、消防署等の関係機関に連絡する。

**7 取扱い及び
保管上の注意**

取扱い : 皮膚に触れないよう保護手袋等の保護具を着用する。取扱い後は手洗いを充分に行う。
 火気厳禁。
 混合接触させてはならない物質 : 知見なし
 容器包装材料 : 容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。
 保 管 : 直射日光を避け、容器を密閉し、冷暗所に保管する。
 消防法の法令に定めるところに従う。

**8 暴露防止及び
保護措置**

設備対策 : 状況に応じ、局所排気装置を設置する。
 管理濃度 : データなし
 許容濃度 : 日本産業衛生学会、ACGIHともにデータなし。
 保護具 : 呼吸器の保護具 : 状況に応じ、防塵マスク、防毒マスクを着用する。
 目の保護具 : 状況に応じ、普通眼鏡型、ゴーグル型を着用する。
 手の保護具 : 状況に応じ、ビニル製、PE 製、ゴム製等の非浸透性の手袋を着用する。
 皮膚及び身体の保護具 : 状況に応じ、長袖作業衣等を着用する。

9 物理及び化学的性質	物理的状態	: 均一なペースト状
	色	: ブラック (BL)、ダークグレー (DG)、 ライトグレー (LG)、ホワイト (W)
	比重	: 約 1.6g/cm ³ (23°C)
	臭い	: ほとんどなし
	PH 及びその濃度	: 測定不可
	引火点	: 100°C以上
	発火点	: データなし
	不揮発分	: 95%以上
	粘度	: 約 600Pa・s (23°C)
	溶解性	: 水に不要
	蒸気圧	: 該当せず
	蒸気密度	: 空気より大
	物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲	: 知見なし
1 0 安定性及び反応性	安定性	: 通常の取扱い条件においては安定。
	特定条件下で生じる危険な反応	: 知見なし
	避けるべき条件	: 加熱、加湿、冷凍
	危険有害な分解生成物	: 知見なし
1 1 有害性情報		
急性毒性 (経口)	: 混合物の推定値 ATE _{mix} =11400mg/kg から区分外に分類される	
急性毒性 (経皮)	: 分類できない	
急性毒性 (吸入: ガス)	: GHS の定義による液体	
急性毒性 (吸入: 蒸気)	: データなし	
急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト)	: データなし	
皮膚腐食性・刺激性	: 区分2成分を5%未満含有するため区分2に分類される	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 区分2成分を5%未満含有するが、他に情報がないため分類できない	
呼吸器感作性	: 分類できない	
皮膚感作性	: 分類できない	
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない	
発がん性	: データ不足のため分類できない	
生殖毒性	: データ不足のため分類できない	
特定標的臓器・全身毒性	: 分類できない	
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない	
1 2 環境影響情報		
水生環境急性有害性	: 区分1成分×100の計算値が25%超となるため、区分3に分類される	
水生環境慢性有害性	: 区分1成分×100の計算値が25%超となるため、区分3に分類される	
1 3 廃棄上の注意		
残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。	
汚染容器・包装	: 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って産業廃棄物として適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。	

1 4 輸送上の注意 「取扱い及び保管上の注意」の項の記載による。その他、消防法、船舶安全法等の法令に定める所に従う。容器に漏れのない事を確かめ、転倒、落下、破損がないように、積み込み荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送しないこと。
国連分類・番号： 該当せず

1 5 適用法令

消防法	: 指定可燃物 可燃性固体類
労働安全衛生法 [表示対象物質]	: 酸化チタン、酸化カルシウム
[通知対象物質]	: すず及びその化合物、酸化チタン、酸化カルシウム
PRTR法	: 該当せず
毒物及び劇物取締法	: 該当せず

1 6 その他の情報 J I S A 5 5 5 7 (外装タイル張り用有機系接着剤) 認定品
ホルムアルデヒド基準：(日本接着剤工業会) 室内空気質汚染対策のための自主管理規定
J A I A 0 1 2 6 8 0 F☆☆☆☆
4 VOC放散速度基準：
日本接着剤工業会自主管理規定 J A I A - 4 0 6 5 6 0 4 VOC基準適合

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては情報提供であり、いかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

引用文献：

- | | |
|--|------------|
| ・ 1 4 1 0 2 の化学商品 | 化学工業日報社 |
| ・ 化学物質の危険、有害便覧 | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 知っておきたい職場の化学物質 | 中央労働災害防止協会 |
| ・ GHS 対応による混合物 (化学物質) の MSDS 作成手法の研修テキスト (改訂版) | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 製品安全データシートの作成指針 | 日本化学工業協会 |
| ・ 原料メーカーの SDS | 各原料メーカー |
-